

デジ教研議論

R93

～なぜ学校にICTは
普及しにくいのか?～

デジーです。よろしくね！



(c)hayashi emiko

みんなのデジタル教科書教育研究会
Facebookグループ

【議論】なぜ学校にICTは普及しにくいのか -共有の壁-

★投稿(投稿者 = A)

【質問 なぜ学校にICTは普及しにくいのか?】

必ずしも全面的に賛同するわけではないのですが、注目されているようですので、ご紹介します。

▼なぜ学校にICTは普及しにくいのか? -"共有"の壁- - EverLearning!

<http://it-education.hatenablog.com/entry/2013/08/29/014552>

投稿日時：2013年9月20日 17:21

<https://www.facebook.com/groups/dkyof/permalink/587674737941430/>

★サマリー編集：Asami Kataoka（片岡麻実）、JunkoAzuma

★議論

B 取り上げていただき有難うございます。一部の先生の証言と自身の経験を元に構成しているのですが、個人的には「そんな事ない!」という声を多く聞きたいと思っています...

いいね! ・ 3

C 「共有の壁」というのは分析概念としては理解できますが、それを学校特有の文化と見るのはちょっと違うのではないかと感じました。「企業的な発想からでてきた「共有」の概念」というくだりがまさにそうですが、企業におけるノウハウ共有、例えばそれを前提としたSFAの浸透にどれほどの障害があったかは、IT化のプロセスを直に体験してきた企業人なら、誰もが実感として持っている筈です。

(編集者注：SFAは、sales force automation / セールスフォース・オートメーションの略。詳細は、<http://www.itmedia.co.jp/im/articles/0302/28/news013.html>をご参照ください。)

つまり、Bさんが探している問いの答えは「未だ見ぬどこか」ではなくて、実は多くの企業が経てきた体験の中にこそ数多くあるんじゃないでしょうか。

Bさんの世代が社会に出たとき、すでにそこにあったかもしれないITを活かした共有の文化は、実は現在の学校が直面していたような壁を越えて生み出されてきたものだと思います。つまりBさんは「共有文化ネイティブ」な世代の企業人だとも言えるでしょう。学校は企業と違う文化を持っている、というよりも、そこには時差があるのだろう、と私は見えています（逆に言えば今現在に限って言えば、Bさんの見立て通りなのですからけれども）。

もちろんすっかり同じ道を辿るわけではないと思いますが、企業的な発想の産物として共有という文化がある、という考えより、企業でさえも苦労した「共有という行為が持つ価値の共有（笑）」の困難さに今学校が直面している、と考えるなら、さまざまな方面から、さらに多くの示唆が得られるのではないかと思うのですがいかがでしょうか。

私はこのエントリでBさんが挙げておられる取り組みの具体策自体には、かなりの部分で共感します。ただし出発点として「企業とは異質な学校文化」というバイアスがかかることはあまりプラスにならないだろうと感じた次第です。

いいね！ ・ 10

D 共有に対する心理の壁をいかに取り除くかということだと思います。自分が工夫して編み出した教育指導方法を他の先生と分かち合い、指導能力をお互いに向上したり、新しい発見をするには、単に自分が生み出したものをデータベースに登録しシェアしてください、ということでは負担が増すだけとの思いになるのではないかと。それらをメタレベルの評価者がいて、筋のいいものを育てていくサービス機能(仲介エージェントや支援機能)の実現が心理の壁を取り除けるのではなかろうか。

「共有することによる価値の創造」＝自分の能力が向上する、生徒の学力能力が向上するというリーダーシップの存在が重要だと思う。「学会」はそのようなサービス機能になると思います。

いいね！ ・ 3

A 日本語教育の世界では、それほど共有に対する壁は感じないのですが、それでも未だに音質の悪いカセットテープが使われていたりするんですよね。CDとかMP3の方がはるかに聞き取りやすく学習効果も高いと思うのですが……。何というか、僕はむしろ、独自性の逆で、教わった教授法をそのままやるから進歩（この場合はIT化）がないような気がします。

いいね！ ・ 5

E 話がそれるかもしれませんが、新卒初任者は大変だと思います。過去はどうあれ、今の世の中でいきなり4月から学級担任というのは、ちょっと無理があると思うんですよね。まずは非常勤講師的な経験をしながら、初任者研修的なものも受けられるような仕組みがいいかなと思っています。

いいね！ ・ 4

D 学校としての参加でなく、教師個人が個人の立場として共有組織に参加して、自分の考え方や指導方法をオープンにして、逆に多くの学びを参画したお仲間から得るようにしたらと思います。SENSE INOTEは現状どのような共有関係が実現されているが、ある種のノウハウみたいなものが集積されているか興味のあるところです。

(編集者注：SENSEI NOTEは、「全国の先生がつながる」小中高の先生向けSNSのことです。詳細は、https://senseinote.com/about_usをご確認ください。)

この共有をうまく行かせるには、テーマを限定して、あるモデルを示しそれに対して自分の指導方法を出し合う、それによる、「理解の設計」「あるべき姿」など新しい発見ができることを期待しています。

たとえば、Kさんのエクセルをうまく使った、ステップバイステップの可視化学習方法を取りあげさせて頂くとか。(一例：<http://study-jh.cocolog-nifty.com/.../2014/05/post-3885.html>)

話は違うのですが、新人が入校して即、学級担任になるというのは無理があると思います。副担任？みたいなものとか、習熟期間がかなりいると思いますが現状どうなっているのでしょうか。指導する先生、メンターみたいなかたは存在するのでしょうか。先生に向いていない人ははやく別の仕事に代わって頂かないと子供は大変です。

いいね！ ・ 1

F senseinoteはまだオープンされていないので分かりませんが、ここの課題にもEDUPEDIAがなんとか貢献できたらと考えております。(編集者注：SENSEI NOTEは、この議論の時点ではまだ未公開でした。ですが、議論後にオープンしました。「EDUPEDIA[エデュペディア]は学校教員の授業案・学習指導案・教材の共有サイト」のこと。詳細は、<http://edupedia.jp/>をご参照ください。)

キーワードをつけることである程度テーマの限定も出来ますし、コメント欄や評価ボタンを用いることで、評価を可視化したりさらに高めていくことが可能かと思います。名前を出したくない方はペンネームや匿名でも可能です。

デジタルネイティブ、共有ネイティブ世代だからかもしれませんが、慣れればコピーや若干の修正を加えて共有することは容易になったと思います。また、ネットを用いることで、地理的・時間的な制約を超えることができるため、どこでもいつでも良い情報に触れることができますし、より多くの方に発信が出来ます。もちろんリアルの方がニュアンスを含めて多くの事を伝えられるのも重々承知していますし、リアルの研究会はかなりの充実度だとも経験しました。

また個人的には来年度から教育行政で働くので、問題意識の一つである新任教員が学級担任にすぐになってしまっただけで起こる課題にも対処していきたいと考えています。非常勤でなくても副担任や学校内メンターとペアに出来たら良いのですが....

いいね！ ・ 5

D Fさんコメントありがとうございます。どうも先生方も世代代わりして、デジタル共有ネイティ

ブというか、参加型・協同組合的な「塾」...の形態が期待できます。最後はメッシュ型フランチャイズという世界が実現ができそうです。（編集者注：メッシュ型は、網の目(mesh)を指すと考えられる。）

EDUPEDIAというものの存在をおしえていただきありがとうございます。

いいね！ ・ 1

GCさんの考えに同意ですねー。

いいね！ ・ 2

BC様

素晴らしいコメント有り難うございます。御陰さまで頂いたコメントから更に着想や気づきを得られました。

ご指摘の通り私には「異質のバイアス」があるようです。個人としてはそれを取り払いたいと思っています。が、自身の3年間ほどの塾講師経験や中学校の教員である母親、現役教師である親戚の話の聞いている現時点ではまだ、それが払拭できずにいます。まだ共有への道のりが「時差」ではなく別の道方向に向かう危険性を危惧している状態です。根拠はもやっとしているのですが、いろんな教育ICT活用事例を纏めていくうちに国の施策としてのICT化の外圧が先生達の判断を歪めないだろうかという不安があるような気がします。

いずれにしても、もう少しこの命題は頂いた知見をもとに掘り下げてみたいと考えています。

D様

私もSENSEI NOTEの取り組みには注目していて(スタートアップの際に小額ながら投資しています)、はやく動きが見てみたいなと思っています。

共有の心理的な壁は他の先生や企業の方が色々と付言してくれており、一つ挙げさせていただくと「正確かどうか100%確実な自信を持たない教材が広く共有されて問題があったら...」という気持ちも一つ、大きいのかなと思います。多くの生徒に誤った情報が広がるとしたら、責任重大ですからね...

また、D様が仰るような優れた「ファシリテータ」なり「キュレーター」が居ないと、データベースは玉石混淆で実質使えないものになってしまうと思います。勿論人間的な感性や評価が必要とは思いつつ、様々なアルゴリズムを持つ企業のリソースを投入できれば...とも思うのですが。

A様

仰る通り私も単なる「継承」は危険だと思っています。継承ではなく「共有」はベテラン→若手だけでなく、若手⇔若手、若手→ベテランという可能性があるので、この言葉を好んで使っています。

私の職場の特徴なのか、どこでもそうなのかは分かりませんが、意外と若手→ベテランの共有の機会が多いことには入社直後にはだいぶ戸惑ったのを覚えています。とても大切だと思っています。

ます。

E様

私もいきなり担任、はかなりの無茶振りだと思っています。塾の経験しか無いのでそれしか書けないのが残念ですが、私は教壇に立たせてもらうまで10回以上の模擬授業をやり、教案を何度も直され、相当なダメだしを喰らい続けました。が、他の同僚によると「相当早く合格した方だ」と言われました。

そこまではしないにしても、なにか支援する仕組みはあるべきじゃないかな、と思います。

F様

EDUPEDIA、よく存じ上げております。学生リーダーや推進役の方とも面識が有ります。国内の教育支援サービスとしては、manaveeなども可能性を感じています。（編集者注：manaveeはインターネット環境があれば誰でも無料で大学受験のための勉強ができるウェブサービス。<http://manavee.com/>をご確認ください。）

来年度から教育行政に関与されるとの事ですので、是非とも学校と企業、行政が連動して教育のICT化が適切な方向に進むようにお力添えを頂ければ、と思っております。

いいね！ ・ 4

D コメントバックありがとうございます。共有を超えて、「共感」「共鳴」という状態に持ち込む、それは問題解決に寄与できた喜びを得ることが必要だと思います。その意味で、非常にきつい言い方をすると、それに達しないものはアップしても見向きをしてもくれない可能性があります。たぶんそこに自信のなさがあり、G I V Eする側に自信を持ってたてないのかという気持ちが共有を阻んでいる気がします。

ただこのことを強調すると誤解を生み何も進まない可能性があります。そこを打開するには、おっしゃるキュレーター、ファシリテータによるプロジェクト化を行い、共通する悩みをうちあげ、それを解決する手法や考え方を出し合う場を作る「運営」が必要だと思います。

継承は世代を超えてできるものなので、いいものはいいとし、目からうろこが落ちるテーマ募集から入っていくといいと思います。

いいね！ ・ 4

D Bさん、manavee の紹介ありがとうございます。一人の努力(思想) が多くの方々に理解され、1000本もの教育指導の動画があつまったのは素晴らしいですね。まだこの映像は観れていませんが、再編集を通して多くの知見を発見できる気がします。

H Dさんのおっしゃるように誤解が確かに多くなりそうですね。

いいね！ ・ 1

Jこれは、私個人の経験と意見です。現場では、本当に時間がないのです。例えば中学3年の担任なら、進路指導に追われたり最近では保護者対応にも多くの時間が割かれます。そこへ、生徒指導問題が立て続けとなれば、教科の話（大抵同じ教科の先生は同学年になりません）はする時間がありません。けれども、研修時間で教科部会の時間を定期に入れてもらえれば、情報交換し合いますし、互いに授業を見に行きます。若い先生は、熱心で、向上心もあり柔軟で、時間と機会があれば今後も多く共有できると思います。一方40代以上の先生方は授業スタイルも確立していますが、ICTなどでもその良さと方法を学べば授業に取り入れていく方も多いと思います。今年度は、現場を離れ研修三昧させてもらっていますが、それまで部活の朝練もあり、朝は7時から夜は10時過ぎまで、土曜なし日曜もコンクールがあれば返上という毎日でした。多くの教師がこのような毎日を続けているのも事実です。Bさんのアンケート楽しみにしています。本当に、現場は時間がほしいです。

いいね！ ・ 4

H他グループでもいろいろ意見交換をしました。

いいね！ ・ 1

2013年9月1日 1:14 終了

デジ教研議論 ～なぜ学校にICTは普及しにくいのか? -共有の壁- ～

著者 : digikyoken (「みんなのデジタル教科書教育研究会」facebookグループ)

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/digikyoken/profile>



クリエイティブ・コモンズ 表示 - 非営利 - 改変禁止 2.1 日本 ライセンスの下に提供されています。

<http://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/2.1/jp/>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/84481>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/84481>

電子書籍プラットフォーム : ブクログのパー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社ブクログ